

調査期間 2015年7月1日～継続中
所在地 秦野市三廻部
時代 縄文・奈良・平安・中世・近世
調査原因 中日本高速道路株式会社による
新東名高速道路建設事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査
遺跡位置 小田急小田原線渋沢駅の北西約
3 kmに位置する。



主な調査成果

秦野市上地区に所在する秦野市No.125(仮称：三廻部東耕地遺跡)は、中日本高速道路株式会社が計画する新東名高速道路建設に伴い発掘調査を2015(平成27)年7月から実施しています。

これまで本格的な発掘調査がなかった上地区ですが、今回の調査において、縄文時代から江戸時代にいたるまでの遺構や遺物が発見されました。縄文時代では、狩猟で動物を捕獲する施設である早期の「落とし穴」と中期初頭の土器や石器などが出土しています。平安時代では、カマドを持つ竪穴建物が良好な状態で発見されたことが、特筆されます。江戸時代の秦野地方では、1707(宝永4)年の富士山噴火により一帯が宝永火山灰で覆われました。この火山灰を混ぜるよう耕作地を復旧した様子も地層から確認できました。



奈良・平安時代面の調査状況



奈良・平安時代面遺構検出状況



平安時代の竪穴建物跡



平安時代の竪穴建物跡かまど